

2020/05/08（金）10:30～12:30の10分間
国立情報学研究所オンラインセミナー

規模別によるオンライン授業の設計 —その具体例—

早稲田大学人間科学学術院

向 後 千 春

kogo@waseda.jp

1

背景

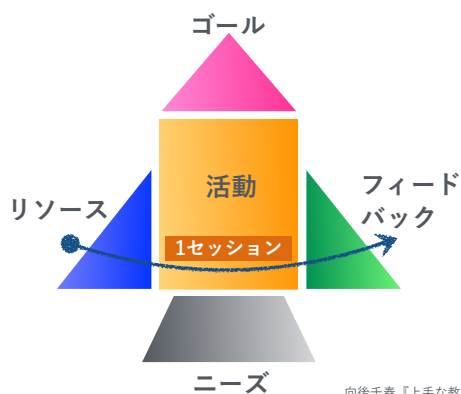
2

- 2003年4月
早稲田大学人間科学部通信教育課程
フルオンライン課程としてeスクール開設
- 2020年4月
LMSの変更：コースナビからWaseda Moodleへ
- 2020年4月20日
eスクール授業開始：トラブルなし
- 2020年5月11日
全学でオンラインによる授業スタート

今ここ

オンラインコースのロケットモデル

3



向後千春『上手な教え方の教科書』
(技術評論社, 2015)

教科書

指定教科書があれば、それを軸にする

PDF資料

自前の資料があれば、PDFで提供

ビデオ

スライド+音声+ポインターでOK

講師の顔はプレゼンスを高める効果あり*

実技のデモはカメラワーク必要

非同期オンデマンド型がデフォルト

* 富永敦子・向後千春（2014）eラーニングに関する実践的研究の進展と課題『教育心理学年報』Vol.53, Pp.156-165（J-STAGE参照可）

活動➡フィードバック**毎回の個人内の活動****クイズ・小テスト**

選択肢問題

➡自動採点機能を使う

ミニツッペーパー

自分にとって重要なポイントを報告

➡採点のみ／コメントは任意

活動➡フィードバック**何回かに一回の個人内の活動****文献レポート**

1,000字から4,000字程度

➡ルーブリックによる採点（TA必要）

実技レポート

実技のビデオまたは写真に説明をつける

➡ルーブリックによる採点（TA必要）

グループによる活動

フォーラム／BBS

オープンあるいはグループ分けによる議論

➡参加点のみ。議論内容はレポートに反映

➡投稿内容のルーブリック評価

ワークショップ／グループワーク

アイデア出しから成果物を作り上げるまで

➡成果物のルーブリック評価

規模別による授業モデル

小規模（10人以下）授業【ゼミ・演習】

リソース

事前課題（ビデオ／テキスト）

活動➡フィードバック

共有画面による学生の発表

➡教員からのコメントと指導

➡学生からの質問とコメント

- ・やってみると対面より質疑が活発化
- ・社会的手がかりが少なくなることが原因かも

規模別による授業モデル

中規模（30人程度）授業【実習・ワーク中心】

リソース

実技・デモビデオ（オンデマンド／同期）

活動➡フィードバック

動画テスト ➡自動採点

実技レポート（学生撮影）

➡TAによるルーブリック評価

➡ルーブリックによる学生相互評価

- ・他の学生の実技を見てチェックする効果

大規模（50人以上）授業【レクチャー中心】

リソース

レクチャービデオ（オンデマンド）

活動➡フィードバック

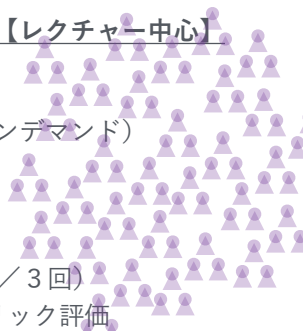
クイズ➡自動採点

レポート（全体で2回／3回）

➡TAによるルーブリック評価

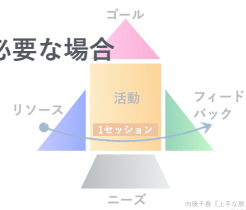
➡ルーブリックによる学生相互評価*

* 渡邊文枝・向後千春（2017）JMOCの講座におけるeラーニングと相互評価に関連する学習者特性が学習継続意欲と講座評価に及ぼす影響『日本教育工学会論文誌』41(1), 41-51. (J-STAGE参照可)



まとめ

- ・「リソース➡活動➡フィードバック」で1サイクル
- ・「活動➡フィードバック」はワンセットで設計する
- ・同期型ビデオ会議は本当に必要な場合のみ使う



オンラインが教室での対面授業を超える点

「いつでも、どこでも、自分のペースで」だけじゃないオンライン教育の価値

- ・すべてのサイクルにおいてやりとりが残り、それが改善の材料となる（教員にとって）
- ・時間と場所を縛るのではなく、何を学び、何をアウトプットしたかだけで自分の学習が評価される（学生にとって）
- ・対面が必要な教育とオンライン教育のそれぞれに予算投入できる（大学にとって）

Think-Pair-Share

ブレイクアウトルームで2人組にして実施

相互評価

ブレイクアウトルームで4人組にして実施

ピアインストラクション

ブレイクアウトルームで2人組にして実施
